

みんなの
ための
校長会に

茨城県 学校長会広報

第223号

発行者
茨城県学校長会
会長 東小川昌夫
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集 各部・各委員会の構想，新会員紹介



目次

- 表紙写真に寄せて…………… 1
- 平成二十四年度
茨城県学校長会について…………… 2
- 特集「各部・各委員会
の構想」…………… 3
- 特別寄稿「言語活動の充実」
を図り確かな学力向上を…………… 4
- 課題「私の課題」…………… 6
- 市町村教育委員会と
学校長会…………… 7
- 提言二題…………… 8
- 経営研究「創意と活力に
満ちた学校経営」…………… 9
- 研修報告「関プロ小・
全連小・全日中」…………… 12
- 特集「新会員紹介」…………… 14
- お知らせ・編集後記…………… 26

「世紀の一瞬」

東海村学校長会
会長 小貴 芳孝

五月二十一日月曜日、午前七時十分、劇的な世紀の一瞬を迎えようとしていた。児童は、午前七時に保護者や地域の方々から安全に見守られながら登校。時間通りにやってきた。運動場には、遮光板を手にした児童が今か今かと金環日食を待っている。部分日食が始まった。そして雲の切れ間から金環日食が、「うわぁー」の児童と教師の歓声が地鳴りのように運動場に響き渡った。

得も言われぬこの感動は、一生忘れることのない宝となるだろう。

(撮影) 片岡寿夫

「われら意識」を高め、「学校からの教育改革」を実践しよう

茨城県学校長会
会長 東小川 昌夫

校長は免許を有して教育実践にあたるプロ集団のリーダーである。我々は児童生徒の実態をよく理解し、学校がおかれている状況や地域社会の要請等もよく把握している。教育改革の当事者はプロ集団である我々である。学習指導要領の改訂というこの時期に、学校がこれまで積み上げてきた実践結果や、評価・検証を通して得た成果をもとに、児童生徒の健やかな育成に視点を当てた「学校からの教育改革」を進めたいと考える。我々が当事者意識をより強くもちつつ、教育のあるべき姿を求めて、以下の二点に重点化を図りながら、「学校からの教育改革」を推進したい。

学校長会活動目標決まる

平成二十四年度茨城県学校長会総会

私たち校長は、学校経営のビジョンを明確に示し、創意と活力に満ちた学校経営に努めるなど、学校からの教育改革を推進し、県民の信頼と期待に応えなければならぬ。また、家庭や地域社会、関係諸機関等との連携・協力を密にし、一人一人が輝き、自立する子どもたちを育成する使命と責務がある。茨城県学校長会は、教育基本法等を踏まえ、先達の築かれた業績と精神を継承し、英知と情熱を結集して以下の具現化に努める。

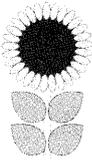
1 基本方針

- (1) 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進
- ・ 中期教育ビジョン（3年）を策定する。
- ・ 少人数指導教育の調査研究と検証を継続する。
- ・ 教職員定数改善についての調査研究を継続する。
- (2) 学校研究の質を高める研究の推進
 - ・ 信頼される学校づくりを進めるための研修と支援を進める。
 - ・ 育ちや学びの連続性を意識した義務教育の推進を図るための研修を進める。
- (3) 学校長会の組織運営の活性化

- ・ 「われら意識」を高めるため、広報活動（Web等）を充実させ、会員相互の連携に努める。
- ・ 組織の活性化と活動の継続を図る。（総務委員の配置）
- (4) 児童生徒の夢の実現に向けた教職員の資質能力の向上
 - ・ 県教育研究会と連携して、「わかる授業」の成立に向けた教職員の研修を進める。
- (5) 教育諸条件の整備
 - ・ 県教育行政機関、教育関連諸機関との連携や情報交換を行う。
 - ・ 教育諸条件の整備・充実のため、組織的な取り組み（情報収集と発信、提言や要望活動）を展開する。
- (6) 関係機関・団体との連携強化
 - ・ 全国連合小学校長会・全日本中学校長会との連携を強化する。
 - ・ 子ども支援茨城連絡会との連携活動を強化する。
 - ・ 県教育研究会と連携して教育振興大会を開催し、教育に対する世論の喚起を図る。

2 重点施策

- (1) 茨城県学校長会中期教育ビジョン（3年）の策定【総務委員】
 - ・ 平成24年度内に、平成25（27年度）の県学校長会「中期教育ビジョン（3年）」を策定し、活動計画を設定する。
 - ・ 新しく配置する「総務委員」が中心にあたる。
 - ・ 各年度末には活動の検証を行い、次年度の活動に生かす。
- (2) 少人数指導教育の充実のための調査研究【行財政・広報・Web・県教育研究会】
 - ・ 少人数指導教育の成果を可視化するための評価方法を検討する。
 - ・ 少人数指導教育を実施した学年の経年変化を調査する。
- (3) 信頼される学校づくりを進めるための研修と支援【小・中各部会・総務委員】
 - ・ 信頼される学校づくりのために、学校経営研修の場として、小・中学校長研究協議会がより充実するよう、平成24年度から実施方法を工夫・改善する。
- (4) われら意識を高める場の設定【総務委員・行財政・法制・調査研究・広報・Web】
 - ・ 県学校長会への参画・協働意識を高めるための手立てを講じる。
- (5) 組織の活性化と活動の継続【総務委員・行財政・法制・調査研究・広報・Web】
 - ・ 総務委員（若手の人材）を配置し、役員会参加により活動の継続と円滑化を図る。
 - ・ 各ブロックから1名（中央は2名）を選考し、計6名とする。
 - ・ 年代は若手校長とする。
 - ・ 役員会に参加する。（必要に応じて企画会に参加）
 - ・ 役員会メンバー
 - ・ 現行、役員6名に総務委員6名を加え、計12名とする。
 - イ 組織図における「役員会」「総務委員」を表示する。
 - ウ 専門委員会の横の連携等を図る。
 - ・ 企画会に専門委員長5名を加えて、専門委員会の活動内容について協議する。
 - ・ 企画会メンバー
 - ・ 現行、役員6名、ブロック代表5名の11名に、専門委員長5名を加え、計16名とする。



各部・各委員会の構想

確かな教育の成果を求めて

小学校部会



小学校長研究協議会の充実を

部会長 吉澤 一喜
(水戸・浜田小)

我々校長は、学校経営のビジョンを明確にし、創意と活力に満ちた学校経営に努めるなど、学校からの教育改革を推進し、家庭や地域社会、関係諸機関との連携・協力を密にし、一人一人が輝き、自立する子どもたちを育成する責務がある。

小学校部会では、県学校長会の活動目標を実現するため、年間四回の定例会を開催し、企画実行委員が中心となり、学校教育の諸問題について、協議、情報交換をしていく予定である。

特に今年度は、大震災の影響で昨年度実施できなかった小学校長研究協議会の開催とその充実に努めたいと考えている。今年度に向けて検討されてきた改善の視点は ①協議により意見を聞いて自校に活かせること ②他地区の発表が深まること ③校長のモチベーションが上がることで、本部会の活動のねら

いである「将来の目標に向かって確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童の育成を目指した小学校教育の推進」のもと、研究協議会を開催し、課題の十分な現状認識と分析を行い、校長一人一人が学び合い、課題解決のための力量を高めよう研修の機会としたい。

なお、5分科会で実施し、分科会内で10分科会に分かれて実践上の課題についての共有化を図り、協議を深めていくことで、校長自身の資質向上を図ってきたいと考えている。

【小学校部会の活動】

企画実行委員 ◎委員長

◎石島 光夫 (中・吉田小)

舟生 尚之 (北・松岡小)

斎藤 浩 (東・旭西小)

宮本 経之 (南・牛久二小)

館野 仁一 (西・絹川小)

1 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進

2 学校経営の質を高める研究の推進

中学校部会



学びと育ちの連続性

部会長 東小川 昌夫
(水戸・第一中)

中学校部会は、平成二十六年に開催する、関東甲信越地区中学校長会第六十六回研究協議会茨城大会に向けて、いよいよ本格的な取組を開始する。

昨年度の準備委員会での協議の結果、研究協議会を「豊かな人間性と創造性を備え、社会において自立的に生きる人間を育てる中学校教育」とし、研究の視点を「学びや育ちの連続性を意識した中学校教育の創造」と設定した。

義務教育の最終段階を担う中学校教育においては、生徒の教育内容と結果に重大な責務があ

- ① 「関プロ小群馬大会」参加 六月七・八日
 - ② 「全連小奈良大会」参加 十月二十五・二十六日
 - ③ 小学校長研究協議会の開催 十二月十二日
- フェリベールサンシャイン

- 3 学校長会の組織運営の活性化
- 4 児童の夢の実現に向けた教職員の資質能力の向上
- 5 教育諸条件の整備
- 6 関係機関団体との連携強化

る。学習指導要領の全面实施スタートとなる今年度は、生徒の学びと育ちの連続性にも焦点をあて、「確かな学力」「豊かな心」「健康な身体」を育み、生徒の自己実現を図りたいものである。

各学校においては、茨城大会の研究の視点をよく吟味し、「連続性」をどのような観点で捉え、どのような具体的な活動内容につなげるかが課題と考える。

義務教育九年間を学ぶ生徒にとっては、小・中学校という学齢による学びの場の区切りはあっても、修得する学びの質や

量は連続し、積み重ねることによって成立しているということ、これまでの研究成果等でも示されている通りである。小中連携という取組にも見られる通り、既習の学習内容を、今後の学びや育ちにどのように関連させていくかについて改めて究明することは、義務教育のまとめとなる中学校教育にとっても意義深い研究の視点であると考え

本県教職員の「小・中学校間の人事交流」は、他都県とは異なる特色である。近年、全国各地の小・中学校で「小中連携・一貫教育」の重要性に視点を当てた様々な施策が見られる。これまで茨城県が取り組んできた「小・中学校の教育内容や児童生徒の発達がよく理解できる教育環境」という特徴を十分に生かして、連続性を意識した手立て等について究明できるように期待する。

今後、県内各中学校の校長先生方には、組織編成や研究推進の各担当として、様々なお力添えをいただくことになる。県学校長会中学校部会員としての「われら意識」を高く掲げ、関地区中茨城大会が「茨城らしい研究協議の場」になるよう精いっぱい努めたい。

特別寄稿



「言語活動の充実」を図り
確かな学力向上を

教育庁義務教育課

副参事 森田 充

平成二十三年四月の小学校の新学習指導要領全面実施に続き、二十四年四月からは中学校の全面実施となった。各学校とも、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた実践がなされているが、確認しながら、学力向上に取り組む方向性を定めていかなければならない。

新しい学習指導要領で主たる課題となっているのは、基礎的な知識・技能の確実な習得と、これらを活用するための思考力・判断力・表現力の育成であるが、本県では、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、思考力・表現力に課題があることが明らかになっている。この課題を解決するためには、学習指導要領の教育内容の改善事項の一つである「言語活動の充実」を実現しなければならない。言語活動が充実すれば、相互の考えを交流して深め合う中で、思考力・判断力・表現力を育成しながら、各教科等の目標や指導事項を確実に定着させることができる。

しかし、教師主導の授業で言

語活動の場が少なかったり、言語活動が行われてはいるものの適切な指導がなされず、児童生徒任せで学習のねらいの実現に結びついていなかったりする授業が少なくないように思う。

各学校では、言語活動を充実させるため、次のような視点で校内研修を進め、授業を改善していかなければならない。

- ① 学校全体が、言語活動をどう考え、実際にどんな活動をさせるのか、望ましい言語活動や授業の共通イメージをもつ。
- ② 本時のねらいに合った課題になっているか、その課題を児童生徒が自ら追究しようとする授業構成になっているか、本時のねらいや身に付けさせたい力にふさわしい言語活動になっているか、思考や判断を促す発問や指示が明確になっているか、などの授業づくりの際の留意点を明確にする。
- ③ 授業の中で思考や判断を促すための具体的な発問例を、比較・整理、関連・統合、理由・根拠、目的・位置、条件などの視点から明確にする。

④ 語彙力、記述力、聞く力（質問力を含む）、話す力（感想・説明・質問）、話し合う力、司会力など、言語活動を充実させるために、児童生徒に身に付けさせるべきスキル、その指導と評価の方法を明確にする。

⑤ 授業研究に際しては、言語活動のねらいや内容、それを実現するために教師が想定している発問や指導・助言を学習指導案に表記すべきである。また、授業後の協議では、イメージした活動が実現したのかしなかったのか、それは何がよかったのか足りなかったのか、どう改善すればいいのかを明らかにし、指導案に戻ってみる。明らかにしたことを学校全体で蓄積しながら授業研究を繰り返す、学校全体の授業力向上につなげる。

⑥ テストや各種調査の結果から、一人一人の児童生徒の学習状況、授業者の指導を評価し、児童生徒への深化補充学習、教師の指導改善を具体的にを行う。

⑦ 小中学校の連携を強化し、小中学校が相互の課題と役割を明確にして授業改善に取り組む。

校長先生方が、常に取組の進捗状況を把握し、よりよい取組になるよう指導助言をすることにより、確実に学力が向上していくことを期待しております。

行 財 政



よりよい教育を目指して
— 教育活動の検証・分析、
成果を踏まえた要望活動 —

委員長 勝村 登

大震災から一年四か月余り、復旧から復興へと社会全体が動き始めています。

震災をきっかけに、学校特に公立学校の置かれている立場が一層明確になったことを痛感しています。それは、「地域の学校」としての立場です。「絆」という言葉に代表されるように、人と人の結び付きの大切さが語られています。

学校は、主に子どもたちが学ぶ場ではありますが、地域住民が心を寄せてくれる場所でもあります。「おらが学校」として、地域の誇りになれるような学校をつくること、それが学校長を始め教職員に課せられた一つの使命です。

本委員会では、「一人一人が輝く学校づくり」のために、少しでも教育環境の整備や教育諸条件の改善に向けて、明確な方向性をもって取り組んでいきたいと考えています。

一 組織

- 委員長 勝村 登(水梅が丘小)
- 副委員長 大内 雅司(水赤塚小)
- 幹事 磯田 洋(水常磐小)
- 同 竹内 修(水千波小)
- 同 潮田 朱美(水樽一小)
- 同 平井聡一郎(古高野小)
- 小委員長 小川 正一(ひ中根小)

同 羽石 修(那覇照小)

同 入之内昌喜(東広浦小)

同 田切 和明(北関南小)

同 大原市郎(左右衛門(行和弘三))

同 杉山 英彦(利文小)

同 茅場 宏枝(土浦五中)

同 袖山 恵子(常五箇小)

同 小林 正治(高君田中)

同 高正 孝行(銚諏訪小)

同 櫻村 康司(石杉並小)

同 島田 和夫(結上山小)

二 活動目標

学校長会の方針に沿って、本委員会の活動を中期教育ビジョン(三年間)の中でとらえ、継続的な取組により「学校からの教育改革」ができるようにする。

三 活動内容

- (一) 教育課題解決のための諸施策に関する調査と研究
- ア 少人数教育の調査と検証
- イ 管理職給与の現状と今後の在り方
- ウ 教職員定数の改善
- エ 調査研究委員会と合同小委員会を組織して取り組む。
- (二) 県への要望
- (三) 次年度に向けての活動計画

法 制



「学校長必携」第三十集の発行に向けて

委員長 瀧ヶ崎 正彦

昨年度は、茨城県教頭会法制部との連携により、学校長必携と教頭会法制研修会記録とを合本し、「学校運営のための法制問答集」を発行しました。

本年度は、教頭会との連携をさらに進め、法制に関する合同研修会開催を予定しています。

併せて、本年度からの学校長会中期教育ビジョン構想づくりに、法制委員会としてどんな取組をしていくべきか、広く皆様方からご意見をいただき検討してまいります。

一 組織
委員長 瀧ヶ崎正彦(水戸野小)
副委員長 梶山 豊昌(常久小)
同 和田 慎一(精江川南小)
幹 事 岩田 伸子(水笠原中)
同 来栖 公明(東・桂小)
同 片山 聡彦(小玉葉小)
同 乾 孝之(北大津小)
同 小野口和章(行麻生中)
同 櫻井 康夫(龍大宮小)
同 大島 正(下妻・妻小)

二 活動内容

(一) 「学校長必携」第三十集の発行
(二) 管理・運営上の法制問題の調査・研究
(三) 法制に関する研修会の開催
(四) 「学校運営必携」十訂版

調査研究



「東日本大震災後の」の学校教育への取り組み状況等の調査と分析を中心に

委員長 比留間 範之

本委員会は、本県学校教育の現状や直面している課題等の調査を通して、県学校長会がその解決に向けた提言活動等を行うための資料を提供するとともに、各学校の教育推進の一助とすることを主な目的としています。

本年度は、東日本大震災後の学校教育への取り組み状況等についてまとめます。

また、「特色ある教育活動」については、Webページへ掲載します。

一 組織

委員長 比留間範之(水城東小)
副委員長 吉川 博久(小笠倉小)

研修会)五月～十月
・ 学校運営上の法制問題についての調査と回答づくり
・ 「学校長必携」第三十集の編集・発行
(三) 「学校長会法制委員会・教頭会法制部合同研修会」十一月

三 改訂作業(一・二次)
活動計画
(一) 「委員会」五月
・ 組織づくり、活動内容及び事業計画の検討
・ 研修会、事業反省
(二) 「小委員会・ブロック別

・ 学校運営上の諸問題について県教育庁義務教育課による指導・助言 以上の活動を推進し、「学校長必携」の十一月中の発行に努めてまいります。

広 報



会員に役立つ情報提供を

委員長 木下 美直

本委員会は、会員相互の情報共有化を図るとともに、現場で直面している課題解決に役立つ会報の作成に努めます。

一 組織

委員長 木下 美直(水大場小)
副委員長 小林 靖(水石川小)
同 鬼澤 真寿(笠富小)
幹 事 大山 紀子(水大野小)
同 高倉 進(東沼前小)
同 小南 豊久(水赤塚中)
同 米川 博美(小玉葉小)
同 大沢 靖司(日笠藤芝)
同 渡邊あけみ(北茨石南小)
同 井能 忠雄(鎌青柳小)
同 宮内 藤夫(行芳羽生小)
同 川村美弥子(牛久南中)
同 大熊 祐子(北条小)
同 高島 好実(常盤堂小)
同 篤 緑(結城小)

二 活動目標

(一) 学校長会の活動方針・事業等の周知及び情報交換
(二) 会員相互の連帯感(われわれ意識)の高揚及び情報交換
(三) その他必要に応じた広報活動
三 発行計画及び内容
(一) 二二三号(七月十三日)
(二) 二三四年度の活動目標報告・新入会員紹介
(三) 二二四号(十月十六日)
(四) 「特色ある学校経営」
(五) 「創意を生かした特色ある教育課程」
(六) 二二五号(二月十五日)
(七) 「危機管理体制の整備と学校安全の確保」
(八) 「新年度に備えて」

・ 調査用紙の配布と集約
・ 調査結果のWebページへの掲載
(三) 全連小、全日中等の各種調査への協力
・ 調査依頼校の選定
・ 調査用紙等の集約と報告
・ 勤務実態に関する把握調査の継続及び分析・考察

・ 六月と十月の超過勤務時間数の調査と考察
以上の諸活動推進のため、二回の委員会と四回の小委員会を開催したり、電子データ等を活用した意見や情報交換を行ったりして、十分な成果が得られるよう努めてまいります。

課題



私の課題

茨城県学校長会副会長
錦 織 常 雄
(鹿嶋・三笠小)

教育に課せられてきた課題は、その時代を反映し、それぞれの時代に必要なる人材の育成が求められてきた。学力の向上ひとつをとってみても、身に付けるべきとされる内容はその時代が色濃く反映され、大きく変化をしてきた。時代とともに課題は変化を遂げてきたが、変わらなかったのは、教育活動のほとんどが教室で行われ、教師と児童生徒、この両者の関係によって学校教育が成り立ってきたことである。

それを考えれば、教育課題の解決は、教員の資質の向上、つまりは人材の育成なくてはなし得ないことは自明の理である。この人材の育成を進めていく中で、今後の大きな課題の一つは、数年後にやってくる大量採用時代への対応である。

東京都や神奈川県ではすでに現実のものとなっており、様々な対策がとられているが、本県でもまもなくその時を迎えることになる。

現在は、まだ新採職員が限られた人数で、配置される学校は

限定されているが、数年後には、多くの学校で新採職員を迎えることになり、その育成の在り方が、当該校の活性化に直結することになるであろう。

茨城県では、従来から他県に先駆けて若手教員研修の充実を図っており、十分なノウハウを有しているが、学校単位で見ると、少子化によって学校規模が縮小傾向になって採用が絞られて以来、長い期間新採職員が配置されず、その育成の経験をもたない学校は数多くなっている。

今後、新採職員を迎えるための各学校の体制づくりは、再度研修が必要とされよう。

私には、校長としての新採職員との関わりを通じて、人材育成に関して重要なことを学ばせてもらった経験がある。

それは、課題は与え続けることは易しく、それを成長に変えることは非常に難しいということである。経験の少ない新採職員に対して、問題点を指摘し、課題を与えることは容易であ

る。

しかし、具体的に方向性を示し、適切にアドバイスし、そして何より、最後に、「そこまでできれば十分です」と言ってくれる人間がいないと、何ら成就感をもてず、成長した実感をもてないまま一年が過ぎてしま

い、その後の資質の向上にはつながらないということである。そして、このことは新採職員に限らないことで、校長として職員に課題を与え続けるだけの状態は、単に仕事に対する多忙感が増すだけで、何かを達成した充実感もなく一年が過ぎ、職員の資質の向上に関しては、あまり成果があがることはないのである。

学校の課題は、必須のものばかりであり、解決のために最大の努力を傾注すべきものばかりであるが、校内においては、学校の実態にあわせて優先順位をつけ、どの課題をどの程度達成できれば良しとするのかを職員に示してやらなければ、むしろ意欲は失われ、良い結果は得られない。

年度当初に、学校の進むべき方向性を示すとともに「この課題については、今年はこのままで十分です」というタイミングを探すが、私にとつての、毎年の最大の課題である。

Web ページ



Web ページのさらなる活用を目指して

委員長 坂本 瑞

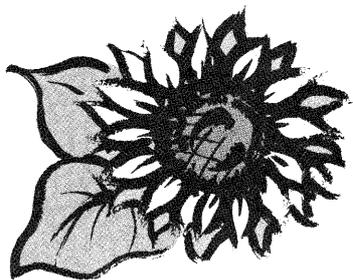
本年度は、県学校長会として Web ページのさらなる活用を目指し、Web ページ運営委員会の組織の確立と活用、Web ページの内容検討及び更新、県学校長会専門委員会との連携協力に努めてまいります。

一 組織

- 委員長 坂本 瑞(水双葉舎小)
- 副委員長 桐原 峰男(水河和申小)
- 同 四宮 雅人(龍城南中)
- 幹事 今泉 寛(笠友部中)
- 同 前嶋 茂男(ひ那河津中)

二 活動内容

- 委員 大友 光男(郡村松小)
- 同 鈴木 博史(北宮圭保)
- 同 山口 俊也(神穂勢中)
- 同 廣原 高志(土神立小)
- 同 谷澤 裕彦(桜雨引小)
- (一) 県学校長会 Web ページの内容検討及び更新
- (二) 県学校長会 Web ページの運営及び運営方法の改善
- (三) 県学校長会専門委員会との連携協力
- 三 活動計画
 - 第一回運営委員会 六月
 - 第二回運営委員会 二月



市町村教育委員会と学校長会

常陸太田市

教育委員会との連携

常陸太田・瑞竜中
中村 和幸

平成二十三年度末における小学校の統廃合により、常陸太田市学校長会は、小学校十四校、中学校八校でのスタートとなった。少子化の中にあつて、二十二校の校長の志気と結束力は高く、よりよい学校経営の在り方を求めて教育活動の推進に鋭意努力しているところである。

これまで常陸太田市学校長会は、各校の課題を明確にして学校教育プランの構築とマニフェストを策定し、教育委員会との密接な連携を図り特色ある学校づくりを推進してきた。

ここに特色ある取組として三つの事業を紹介する。

一 未来を拓く児童生徒育成チャレンジ事業

各学校には、それぞれの「よさ」があるとともに「課題」も多い。また、学力向上を中核として、学校教育活動全体を通して「生きる力」を身に付けさせ

知・徳・体の調和のとれた児童生徒を育成することが我々に課せられた命題でもある。当市における本事業は、テーマ選択による特色ある学校づくりを推進するものであり、各学校が「学力向上」は全校、「豊かな心」「健康やかな体」推進プロから一つを選択し課題を明確にしてマニフェストを作成するとともに実践・評価システムを構築し教育活動を推進していく。本事業における財政面の支援は、各校にとって大きな力となっている。

二 学力向上推進事業

学力向上は、学校の責務であるとともに喫緊の課題である。本市では、平成二、三年度に県教育委員会より、「学力向上推進地域」の指定を受けて以来今日まで、市教育委員会と学校長会による共催事業として継続してきた。授業研究を中核として、

県学力診断のためのテスト結果分析と考察、教材開発を柱として、時代の要請と課題に対応した研究と実践に努め、市児童生徒の学力向上に寄与してきた。

三 常陸太田教育研究所

平成十四年度から始まった市教育研究所は、有志による寺子

屋を経て、教育委員会と学校長会が連携し休日等を使つての研修会を積み上げ教職員の資質及び指導力向上に努めてきた。事務局は市教育委員会にあるが、運営は学校長会推薦の委員により行われ、授業研究会・各種講座・実技研修・大学教授による講演等内容も多彩であり、「求める研修」の機会として参加率は極めて高い。

学校長会は市教育指針の「未来を拓く人づくり」に基づき児童生徒一人一人の輝きを目指し教育委員会と連携を図り学校経営に努めてきた。今年度は、市教育長より示された心訓「日々改善、一歩前進の学校づくり」を胸に、さらなる高みを求める特色ある学校づくりに邁進したい。

潮来市

潮来市教育委員と学校長会との連携について

潮来・潮来小
方波見 良雄

本年度から行方地区学校長会が、潮来市、行方市と分離し、市単位での新生学校長会がス

ターゲットした。

本学校長会は小学校六校、中学校四校の計十校で構成され、より効果的な運営を推進させるため、行方市学校長会と研修会等を共催して連携をもちながら進めていく予定である。

本市学校長会は毎月定例の学校長会を開催し、教育長、指導主事も同席し、本市教育の向上に向け教育的課題を協議したり、各校の取組などの情報交換等を行つたりしている。

ここでは本市教育プランの取組と実践を紹介したい。

一 確かな学力を身に付けさせる教育の推進

学力向上は本市において緊急の課題である。そのため、学習指導研究協議会（教育委員会と共催）を年三回実施と、研究指定校（三校）の委嘱を行い、教員の指導力向上と学力向上に努めている。今年度は研究の成果を小学校二校、中学校一校が実践発表を行う予定である。また、「学びの広場サポートプラン」を拡大し、昨年度から冬季休業中も実施した。学力診断テストの結果から前年度と比較すると各校とも伸びが見られたことは大きな収穫であった。本年度、本市目標値が示され、各校とも実態に応じて個別指導に力を入れ学力向上に繋げていきたい。

二 豊かな心の育成・道德教育の充実

新しい事業として、「復興教育の推進」がある。本市においても東日本大震災は未曾有の大災害をもたらした。ライフラインが断ち切られ、一時学校再開の見通しが危ぶまれたが、多くの支援を頂き現在に至っている。この震災の教訓を踏まえ、

未来へ希望をもつて前進できる人材の育成が求められている。そのために学校教育ばかりでなく地域のボランティアや社会貢献活動等に積極的に参加することによって自らも社会の一員であることを自覚し、夢をもつてよりよい社会づくりに参画する意欲をもたせたい。

三 健康や体力をはぐくむ教育の推進

本市のキャッチフレーズのひとつに健康がある。これは本市が全国から比較して成人病を発症している割合が高いからである。教員現場でも生涯を見通した体力作りが求められている。また、市主催の健康フェスタに多くの児童、生徒が参加し、地域住民と共に汗を流している。

これらの取組を通して、教育委員会と学校長会が一体化し学校の活性化、組織力の強化に繋がっている。「将来社会人としてしっかりと生きていける子の育成」を念頭に、教育委員会との連携を密にして推進していきたい。

提言二題

きらきらと輝く子どもたちへ



結城市立小・中学校 PTA連絡協議会会長 小野澤 利光

日頃より、校長先生をはじめ諸先生方には、子どもたちはもとより地域との連携等にご協力いただき大変お世話になっております。また、PTA連絡協議会の裏方として日夜サポートしていただいている教頭先生には感謝いたしております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。この様な権威ある学校長会広報誌に寄稿させていただきます、光栄に思っております。

さて、「将来の夢は、なんだ？」と問われたとき「○○になりたい！」と目を輝かせる子どもたちが、学年が上がる毎にだんだん減っていく、そう感じたことは無いでしょうか。自分の成績と現実の職業というものを理解した結果なのでしょう。これも自己理解、成長の証なのではないか。それでは、悲しすぎると思います。

将来について考える学習です。職業体験なども行われていきます。自分の将来の見つけ方について、学校で教えてくれる時代なのでしょう。

「子どもは、親の姿を見て育つ。」と言いますが、私たちは、今、どんな背中を見ているのでしょうか。親の私たちが子どもたちのためにすべきことはたくさんあると同時にしてはいけないこともあると思います。子どもたちが安心して学校に通えるように地域とともに安全をサポートすること、子どもたちがのびのびと生活できるよう環境を整えることをPTAでは、支えて行きたいと思えます。成績のことで一喜一憂し、子どもの生活に干渉しすぎることは、子どもたちのやる気を削ぎ、自主性を萎縮させてしまいうに違いありません。

震災から一年あまりが過ぎたとはいえ、被災地の復興は思うように進んでいないのが現実のようです。つくば市や筑西市、常陸大宮市でも、竜巻による大きな被害が出てしまいました。自然の力の前には、人は無力だと思われ知らされる出来事が続いています。そこから立ち上がる力とは何でしょうか。それは、希望を持つこと、あきらめない強い意志を持つことではないでしょうか。そして、それを支える人々の絆、思いやりの心だと

思います。子どもたちが、この希望、強い心と優しい心を持つよう、私たちは、子どもたちを時には見守り、時には励まして行きたいと思えます。

「ここに生きるわれら きらきらとかがやいて行こう」息子の通う中学校の校歌の一節です。私は、この一節が好きです。子どもたち一人一人が輝けるように私たち親は精一杯力を注ぐと共に、学校の先生方や地域の皆様方と力を合わせて子どもたちを見守って行きたいと思えます。

私の思いつくままを書き並べただけの「提言」とは程遠い文章となつてしまいましたことをお許しただければと思えます。



東海村PTA協議会会長 照沼 規夫

改革の時

また、校長先生を始め先生方には、日頃よりPTAの活動に対し特段のご配慮とご理解、ご支援を賜り、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

さて、PTAの目的は先生方と保護者が協力して、子どもたちのよりよい成長の場を作り上げていくことだと思います。これについて異論を唱える保護者は少ないと思いますが、いざ本部役員をお願いすると引き受けていただける方は少数ではないでしょうか。

私がPTA会長を務める小学校でも毎年苦労していますし、四代続けて特定の職場から会長を出しています。もちろん、すべてのPTA本部役員や各委員の方々は仕事や家事などで忙しい日々の合間をぬって、PTA活動に取り組んでいただいております、その活動に敬意を表するものですが、PTA役員の担い手が不足していることは否めない事実です。

も少なくはないでしょう。では、一部の保護者のもち回りの組織・運営ではなく、誰もが関心をもち参加できるPTAにするにはどうすればいいでしょうか。

まず、会長になると市町村や教育委員会、自治会等の充て職や会議等の参加依頼が殺到します。昔なら当たり前のことかもしれないませんが、現代の役員にとっては大変な負担となります。できるだけ多くの保護者が、会長になれるようにこれらを大幅に減らすべきです。

最後に、本部役員の選任には苦労しますが、各委員会の委員は比較的集まりやすいので、普段からそれらの方の中から本部役員候補を見つける努力も必要です。

本年度、東海村PTA連絡協議会の会長を務めることになりました照沼規夫と申します。私はPTA役員を引き受けて三年目と日が浅く、諸先輩方を差し置いて甚だ僭越とは存じますが、寄稿させていただく失礼をご容赦ください。

経営研究

創意と活力に満ちた 学校経営

子どもの姿で勝負できる
学校の創造

那珂郡・東海村立白方小学校
黒田 隆久

本校は、東海村の北東部に位置し、閑静な住宅街と畑に囲まれた学校である。平成二十一年に現在の場所に校舎を移転し、敷地面積は四一、一六五平方メートルに拡大され、現在児童数六五六名、学級数二四学級(特別支援を含む)、教職員数三二名、その他に村費臨時職員(生活指導員等)を入れると五一名の職員が配置されている学校である。



学区内には村役場があり、近年は道路状況等が整備されて朝夕の交通渋滞や登下校の安全確保も課題のひとつとなっている。

昨年の平成二三年度には、創立五〇周年を迎えたこともあり、今後の白方小学校の未来を

見つめた活動が躍進的に推進できるような職員で努力しているところである。(写真は白方小のキャラクターの白方マン)

《一人一人がキラリ輝く活力ある学校づくりへ》
本校では、今年度児童と先生が共に手応えを感じ合い、高め合い、一人一人が『キラリ輝く』活力ある学校づくりを合い言葉に確かな人間関係づくりを進めている。児童の主体性を育て、その姿で勝負できる学校づくりをするためには、教師と児童の泥臭い人間関係が必要であると考えている。

そのために白方小学校の掲げる教師像として、目をかける教師・声をかける教師・時間をかける教師・心をはかる教師・願いをかける教師の五つの教師像を白方小学校の『手間をかける教師像』として、児童とのかかわりを深めていくために大切にしている。

これからの白方小学校は、最終的な目標として、子どもたちが夢や希望をもたせ、たくましく成長させて中学校へ無事に送り出すことが願である。

そのために一人一人がキラリ輝く良さをもつ子どもたちに育つよう力を注ぎたい。

《学力向上と村との連携》

本校では、学力向上の定着を図るために、「日々の学習改善を図り、学ぶ意欲の高揚と確かな学力の定着を目指します」をテーマに、児童が「わかった、できた」という自信と意欲をもって学習できる授業の展開を行っている。

これは、個に応じた指導法の改善と学びをつなげる学習の習慣化、そして自分の言葉で伝える力を育成する場の工夫を研究推進しているものである。

具体的には、特色ある教育活動としての「理数教育の充実」を図るために、今日まで継続的に研究推進してきた理科授業や自然観察会の継続実施があるが、今年度より県指定を受けて五・六年生が行っている教科担任制モデル事業がその学習改善のひとつとして加わった。理科専門教師が学年内でのローテーション形式による理科授業を展開することにより、さらに専門性を高め、学びにつながる授業の実践が可能になったのである。

また、同じく継続研究を進めている算数科の校内研修では、「分かる授業の指導の在り方」をテーマに基礎・基本の定着を図ることを目指している。

ここでの特徴を挙げるべき点としては、本校を含め、東海村独自の学力向上推進のための協議会を随時開催していることである。これは、算数・数学の計

算力向上と合わせて、国語の漢字語彙力向上についても協議検討し、村内各小中学校が共通理解のもと、各教師がプロ意識をもって授業力の向上を目指すための指導資料としての自作テスト、学びの確認テストを村独自で実施し、着実に学力を伸ばすことができるようになっていく。

実際に本校では、この学びの確認テストを繰り返し実施することにより、一月に実施された県学力診断テストの平均値を確実に上回り、その成果を出すことができた。これは教師が本気で指導したいという思いを学びの確認テストに力を入れて指導してきたという証になっている。

つまり、教師が授業で勝負しなければ結果は出てこないということを実感することができたのである。

このことは、本校だけの学習成果ではなく、東海村全体としての成果であり、学校と教育委員会との連携、そして学校間の連携を常に密接にできたことを証明してくれており自負できるものである。今後もこれらを活かし、充実した学校経営に励んでいきたい。



活力ある
声のひびく学校を目指して

高萩・君田小
柴田 千賀子

本校は、標高五一・六mの山間部に位置する二級へき地校である。豊かな自然環境を生かして、米作りやキビの栽培、オトギリ草の採取などの体験活動を行っている。また、冬季は手作りリンクでのスケート学習や校庭でのソリ滑りを楽しむことができる。児童数は六名、複式学級三クラスの小規模校である。

地域の期待に応えて、今年度は少人数だからこそできる、六名の児童で学校中に地域中に元気いっぱい声をひびかせ、活力ある学校を目指したい。児童が自分自身と郷土君田に自信と誇りを持てれば、活力がわき、声をひびかせることができる。と考え、「確かな学力の向上と、



スケート学習

豊かに自己表現できる子の育成」を本年度の目標とした。

一 確かな学力の向上

① 中学校教諭の兼務授業

高萩市が推進している「校種間連携ユニット5」事業の小中学校の具体的な取組として、君田中学校教諭の専門性を小学校授業に生かす乗り入れ授業(兼務授業)を算数・音楽・図画工作・体育・外国語活動で実施している。その成果は児童の個性の伸長や能力の向上に確実に表れている。特に算数科は中学校教諭の兼務授業と教務主任の出席により、複式授業を解消している。

② 小中連携による授業力の向上

兼務授業の他、「普段着の授業」と称して授業公開を行い、中学校教師からの専門的なアドバイスを受け、授業力の向上に役立てている。

③ 個への支援チャレンジタイム

「児童一人一人の課題を克服する学習指導の在り方―豊かに自己表現できる子の育成をめざして―」という学校課題研究のテーマの下、個別支援カルテを作成し、一人一人の課題を把握し教師の誰でも支援できるチャレンジタイムを設定している。また、個に応じた家庭学習を工夫して、課題克服を目指している。

二 豊かに自己表現できる子の育成

① 朗読会への挑戦

毎朝教室のベランダから山に

向かって「朗読・声出し」を行っている。大きな声で朗読することは、グラインドいっぽいに声かひびき活気にあふれ心地よい。全校帰りの会でのミニ朗読会は、その成果を全校の前で発表する良い機会である。また、保護者や地域の方を招待しての「朗読会」では、学年に応じた朗読を行い、招待者から大きな喝采を浴びている。児童自身も達成感のもてる活動である。

② 松岡小学校との交流授業

同学年児童のいない本校では、松岡小学校の同学年児童との交流を通して、多様な考え方に触れ、お互いの考えや思いを伝え合うことで、豊かに自己表現できる子の育成を目指している。また、そうすることで、多くの人々との幅広い人間関係をもつこともねらいの一つとした。冬季は道路凍結のため行けないので、一・二期のみ三日ずつ計六日、二・五校時まで、授業・休み時間・給食・清掃も共に活動することとした。毎回同じクラスに入ることや、担任も松岡小学校で授業を行うことで、本校児童が入りやすい環境を整えている。松岡小学校の多大なる協力に感謝である。

三 郷土学習

① 高萩学

高萩市では郷土学習のための本「高萩学のすすめ」を編集し市内全校で活用している。本校でも「高萩学」を総合的な学習

の時間に位置づけている。「萩っ子検定」もあり、郷土愛を養うための学習となっている。

② 地域との連携による体験活動

米作り・キビ栽培・オトギリ草採取の体験活動の他、今年から「カタクリの郷プロジェクト」を始めた。いずれも地域の物や人を多く活用した活動である。今後も地域の方をたくさん招いて生き生きとした学校、少数でも活力ある声のひびく学校を目指し、努力していきたい。

小中一貫教育を進める中での学力向上のための取組

つくば・つくば百合ヶ丘学園菅間小 藤田 正美

本校は、つくば市の北西部に位置し、周辺に水田の広がる地域にある。今年で創立百三十九年を迎え、児童数九十一名、職員数十一名の小規模校である。

本校を含む筑波西中学校区の四校(筑波西中、菅間小、田水山小、作岡小)は、平成二十二年度から二年間、つくば市教育委員会の研究指定を受け、つくば百合ヶ丘学園として小中一貫教育の実践に取り組んできた。

本学園においては、学力向上研究部、キャリア教育研究部、生徒指導研究部に分かれ、企画運営部の企画・調整を受けて実践してきた。本校は、このうち、

学力向上研究部の担当校として実践に取り組んできた。

一 学力向上のための取組

① 昨年度までの研究テーマ

学園内の児童生徒の実態として、自ら考えて自主的に取り組む姿勢が不足、自分の思いや願いをしっかりと伝えることが苦手、人間関係が固定化しコミュニケーション力が不十分、などがあり、「主体的に学ぶ意欲と表現力の育成―議論できる力を身につけさせるために―」をテーマとして実践してきた。

② 学習習慣の確立

学力の向上のためには、授業中の学習訓練と家庭学習の習慣化が重要である。そのために、まず、部会の中で授業における約束事項を検討して、最低限のことを共通実践するようにした。また、各校の家庭学習の手

引きを検討して、小一から中学校までの学園統一の学習の手引きを作成して配布するようにした。

③ 中学校教員の出前授業

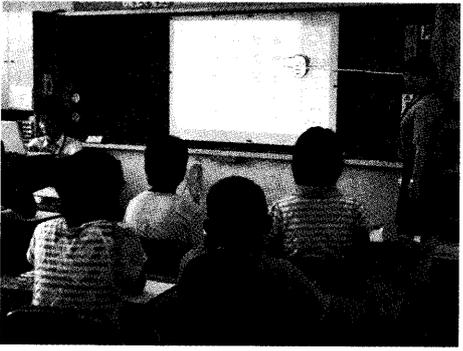
中学校の教員が小学校を訪問して授業を行い、専門性を生かした指導で学習の深化や意欲の向上を図った。図工や体育など技能面の指導が必要な教科では、特に効果が大きかった。

④ 百合ヶ丘スタデイの実施

小学校六年生と中学校一年生の合同授業を通して、自分の考えを相手に伝える力やコミュニケーション力を育てることなどをねらいとして百合ヶ丘スタデイを実施した。これは、総合的な学習の時間に四時間を位置づけ、児童生徒の希望で教科のコースを選択して、小学校と中学校の教師でT.Tで授業を行った

⑤ TV会議システムの活用

百合ヶ丘スタデイの授業の前に、児童生徒がTV会議システムを使って自己紹介を行った。四校がバスでないと一堂に会せない距離にあるだけに、効率的であった。さらに、他校の児童生徒の発表を見ることで、聞き手を意識し発表ができた。また、学園内の複数の小学三年生でTV会議システムを使って国語の発表会を行った。他校の様子を



見ることによって発表の仕方の改善が図れた。

⑥ 中学生学習ボランティア

夏休みに、四年生の学びの広場があるが、本校は十四名と少人数で、登下校での事件・事故が懸念されたため、学びの広場にあわせて、全学年で学習会を実施した。学習内容は、計算や漢字練習を中心として行った。この際、中学生の学習ボランティアを頼み、各担任とともに丸付けをしたり、解き方を教えてもらったりした。卒業生が優しく指導してくれ、効果があった。

⑦ 一身体験学習

六年生が中学校に行つて、一身体験学習を実施した。ここでは、小学校の授業内容を中学校の教室や施設を借りて、六年担任が中学校教員とのT Tで授業を行った。中学校の授業になれる意味で、授業時間は五十分で行い、給食も中学校で取るようにした。専門的な器具や施設を利用して、中学校の教科担任の協力を得ての授業だったので、授業はかなり深まり、中学校の授業への児童の不安をかなり払拭することができた。

二 成果と課題

成果は、まず、「議論できる力」という児童生徒や教師の方向性を明示できたことである。次に、

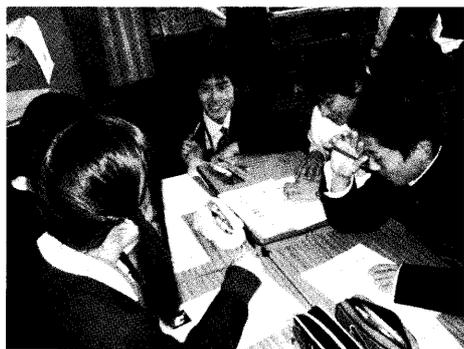
小中交流を通して小中の距離感が縮まったことである。課題としては、時間と距離の制約をどう乗り越えるか、そして、小中一貫教育のためのカリキュラムをどう作っていくかである。

生徒一人一人の学力向上をめざした学校経営

古河・三和中
木村 達人

本校は、本年度創立五五年目を迎え、生徒数四一六名、学級数一五、職員数三八名の規模の学校である。

校訓である「至誠・勤勉・自治」のもと、学校教育目標「知力・気力・体力の調和のとれた心豊かで創造性に富む生徒の育成」をめざし、特に「学力向上」に重点に置き、経営に努めている。



研究主題「生徒一人一人に自信とやる気をつけさせる学習指導法の改善」のもと、取り組んでいる研究の一端を、以下に述べる。

一 学力向上プロジェクト

① 生徒一人一人の実態把握
授業記録、定期テストや学力診断テスト、全国学力・学習状況調査の分析、学習相談シート、小中連携等により、生徒の実態を十分に調査・把握し、指導に生かす。

② 個に応じた学習習慣を確立させる工夫
「生活リズム表」(家庭での学習時間の確保を支援)
「弱点克服プリント」(家庭学習で取り組む内容を焦点化)
これらをもとに、「私の学習プラン」(個別学習計画)を作成し、生活習慣や学習の仕方を直視し、見直しをもって学習に取り組ませる。

③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る授業の工夫
課題提示の工夫(視聴覚教材や具体物等の活用、五感に働きかける手法の利用等)
展開の工夫(分かりやすい発問や板書、グループ活動や話し合い活動等の学び合いの推進、T T及び少人数指導による個に応じた指導の充実、学習意欲の向上を図る形成的評価の充実)
④ 言語活動の充実

・ 辞書や新聞の積極的な活用、掲示物や読書コーナーの工夫など、言語環境を整備する。また話し合いや発表の機会を意図的に設けるとともに、論述・記述・レポートの書き方の指導を充実させる。
二 生活支援プロジェクト
① 教育相談活動の充実
集中して生徒の声を耳を傾ける期間としての教育相談期間を定期的に設定し、担任が生徒全員の相談に当たっている。相談前にはQ-Uテストを実施し、積極的に活用している。
② 相談しやすい環境づくりと魅力的な学校づくり
「CTマッチ」の実施
部活動や教員・生徒の趣味を生かした数々の行事を実施し、多くの教員が生徒に関わりを持つことで、魅力的な学校づくりをめざしている。その一つの「CT (Children & Teacher) マッチ」は、教員がチームを編制しそれぞれの部活動に参加して試合を行い、交流を図っている。
・ 「夏季セミナー」の実施
夏休みに、教員の特技や趣味を生かしてセミナーを開講し、生徒は希望したセミナーに参加し、教員と一緒に楽しく活動することに、生徒と教員の距離の短縮を図っている。
三 特別支援教育プロジェクト
① 「認め・励ます」の支援
教育相談や個別指導計画の活動の中で個に応じた支援の実施、一日の学習計画表へのコメ

・ 辞書や新聞の積極的な活用、掲示物や読書コーナーの工夫など、言語環境を整備する。また話し合いや発表の機会を意図的に設けるとともに、論述・記述・レポートの書き方の指導を充実させる。

二 生活支援プロジェクト

① 教育相談活動の充実

集中して生徒の声を耳を傾ける期間としての教育相談期間を定期的に設定し、担任が生徒全員の相談に当たっている。相談前にはQ-Uテストを実施し、積極的に活用している。

② 相談しやすい環境づくりと魅力的な学校づくり

「CTマッチ」の実施
部活動や教員・生徒の趣味を生かした数々の行事を実施し、多くの教員が生徒に関わりを持つことで、魅力的な学校づくりをめざしている。その一つの「CT (Children & Teacher) マッチ」は、教員がチームを編制しそれぞれの部活動に参加して試合を行い、交流を図っている。

・ 「夏季セミナー」の実施
夏休みに、教員の特技や趣味を生かしてセミナーを開講し、生徒は希望したセミナーに参加し、教員と一緒に楽しく活動することに、生徒と教員の距離の短縮を図っている。
三 特別支援教育プロジェクト
① 「認め・励ます」の支援
教育相談や個別指導計画の活動の中で個に応じた支援の実施、一日の学習計画表へのコメ

ントの記入など、あらゆる場面で「認め・励ます」支援を行うことにより、生徒に自信とやる気を持たせる。
② 体験学習の充実
生徒の実態に応じた体験学習を充実させ、生徒の能力や可能性を伸ばす手立てとしている。

四 小中連携プロジェクト

① 情報交換会や相互授業参観
② 夏季合同研修会の実施
学力向上、生徒指導、特別支援教育の三分科会の実施

③ 小中連携の取り組みを保護者や地域にも公表し、積極的な関わりと協力を求めている。
④ 中一ギャップ防止対策の一環としての小中交流会の実施
以上のような取り組みの結果として、学校評価において、良い雰囲気や学び合っていると答えた生徒は、各教科とも約八割に達している。これは、学校全体で進めている積極的な生徒指導をベースとして、生徒が「わかる」「喜び」と「できる」「楽しさ」を味わえる授業を、全職員が心がけているからと考える。学習習慣については、保護者の理解や協力を得て学校全体で家庭学習推進の取り組みを行ってきたことが、少しずつではあるが結果となって現れてきている。

今後、「丁寧」を合い言葉に、分かりやすく、しなやかに、生徒一人一人を大切に、学校・家庭・地域が連携した取り組みを充実させ、創意と活力ある学校経営に励みたい。

大会に参加して

新しい時代を拓き 心豊かに
たくましく生きる
日本人の育成を目指す
小学校教育の推進
(関プロ小)

水戸・渡里小 細井 信司

第六十四回関東甲信越地区小学校長研究協議会群馬大会が、六月七日、八日の両日、群馬県において開催された。

本県からは、県学校長会の吉澤一喜副会長をはじめ五十六名が参加した。

第一日目の都県だよりでは、吉澤一喜副会長から茨城県学校長会の活動の様子や特徴的な施策などについて説明がなされた。学校長会の活動を活性化するために「われら意識」高めること、教職員の資質能力の向上のために研修を推進すること、教育諸条件を整備するために県教育行政機関や関連諸機関との連携や情報交換を充実することなどが発表された。また、本県の特徴的な施策として、本年度新しく設置する総務委員を中心に、平成二十五年度から二十七年年度の県学校長会の「中期教育ビジョン（三年間）」を策定することなどが発表された。宣言議決では、「私たち校長

は、学校の課題を的確にとらえ、学校の教育目標や学校経営方針を明確にし、その具現化を図るために、確かな教育理念や識見を有し、情熱と使命感をもって、リーダーシップを発揮していかなければならない」として、「確かな教育理念に基づく創意と活力に満ちた学校づくりの推進」など七項目の実現に全力で取り組むことが提案され、全員一致で決議された。

記念講演では、講師の三国路与謝野晶子紀行文学館長の持谷靖子先生から、演題「民話のころ」のもと、感動的な話を聞くことができた。話は概ね次のような内容であった。

西洋の伝承話には、男性の勇者が恋人や貧者等を救うという設定のものが多いが、日本の民話は女性の主人公のものが多く、また、そのストーリーも独特である。日本の民話の多くが西洋のストーリーのように「征服して勝ち取る」というものではなく、「あわれ、無、恥」といった内容のものが多く。「鶴の恩返し」や「鶯の里」などがその代表である。

さて、私はこの話を聞いて「ぜひ、日本の民話を後世まで語り継いでいきたい」と感じた。現

代っ子は、ドライだと言われるが、そうはいつてもその心の奥には、まだまだ「あわれ、無、恥」の文化を脈々と受け継いでいると思う。幼いときに聞かされた民話が、そうした文化の継承に大きな役割を担っているにちがいない。民話をとおして、日本人の心を伝えていくのも教育のひとつの仕事ではないかと感じた。

第二日目は、市内六会場において、二十六分散会に分かれ、研究協議会が行われた。

私は第十一分散会「特別支援教育」の部に参加した。

特別支援教育の部の協議会では、多くの小学校から特別支援教育の重要性が増しているという意見が出された。さらに、新しい特別支援教育を目指した各校の様々な取り組みが発表された。

そうした中で、今最も必要とされているのが、教員や保護者等の意識改革であって、その実現のためには、校長に次のようなことが求められる、とまとめられた。

- 校長は、自ら特別支援教育についての専門性を高めること
- 校長は、特別支援教育が現場でどのように行われているかを自らの目で見ること
- 校長は、これから特別支援教育の進むべき方向を明確に示すこと

- 校長は、特別支援教育についての研修の場を設定すること
- 校長は、研修の効果を急がないこと
- 校長は、特別支援教育コーディネータを支えること
- 校長は、特別支援教育が組織で行われるようにすること
- 校長は、教員が子どもと向き合う時間をもてるようにすること

県外の多くの校長と情報交換をすることもでき、大変有意義な研修となった。

第六十四回全連小総会に参加して (全連小)

桜川・岩瀬小 大島 均

全国連合小学校長会第六十四回総会・研修会が五月二十五日ニッショーホールを会場にて開催された。本県からは、県学校長会錦織常雄・塩森茂郎副会長はじめ八名の校長が、理事及び代議員として参加した。

露木昌仙会長の挨拶は、東日本大震災から一年が過ぎたが被災県と連携を図り復興支援活動を継続していき、自分たちで自立できるようにしたいと会員に熱く語りかけた。

また新しい学習指導要領の実施から二年目を迎え、新たな課題も見えてきた。確かな学力や豊かな心、健やかな体の「知・徳・



体」のバランスの取れた「生きる力」については、校長は明確な経営ビジョンを確立し、教職員の能力を引き出す経営力を示して欲しい。さらに、信頼を生む力となるよう自校のリーダーとして、見通しをもった学校経営が進められるよう校長会としても連携を深めて欲しいと力強く述べていた。

議事では、全連小活動方針が承認された。方針では、校長は自ら研鑽に励み、確固たる経営方針のもと、児童の安全を確保しながら、信頼される学校経営の充実に努めていかななくてはならないとし、

- 一 学校経営の充実
- 二 研究活動の充実
- 三 「生きる力」を育む教育課

程の編成・実施・評価・改善

四 教職員の資質・能力の向上
五 教職員の処遇改善

の五点の活動を推進していくことを確認した。

宣言決議では、全国二万余の会員が力を結集し、十二項目の実現に全力を傾注することが提案され、満場一致で採択された。宣言文では、「生きる力」を育む活力ある学校づくりに努め、夢と希望をもちたくましく生きる児童の育成に全力を注ぎ、小学校教育の充実・向上に努めなければならぬと宣言した。

研修会では、日本の小学校にはよき文化があるとし、文部科学省初等中等教育局長をはじめ各課長より復興教育支援事業における取り組みをはじめ、新学習指導要領の円滑な実施に向けて教育内容の主な改善事項が述べられた。教育基本法改正等で明確になった教育理念を踏まえ、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスの重視や言語活動の充実、道徳教育やキャリア教育の充実、特別支援教育、職員定数の考え方について講話をいただいた。

最後に平野文部科学大臣から東日本大震災から一年以上が過ぎたが、心の教育の充実により、子供たちの元気が社会の元

気につながっている。今後も通学路の安全点検をはじめ学校の安心・安全を推進していった欲しいとエールが送られた。

以上概略ですが、校長としての職責の重要性を再認識するとともに強く認識させられた意義ある総会及び研修会であったことをここに報告いたします。

全日中総会に参加して

水戸・千波中 高丸 知道

五月二十三日・二十四日の両日、全日本中学校総会が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

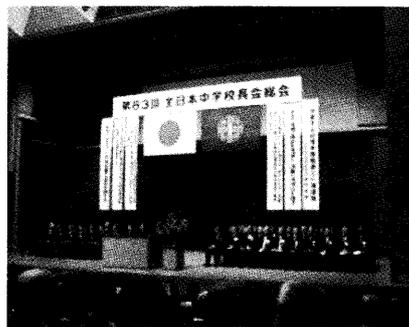
第一日の開会行事の中で、近江近前会長より、次のような挨拶があった。

現在、中央教育審議会において、「第二期教育振興基本計画の策定と具現化」「教員の資質能力の向上」「子供・子育てシステムの検討」「教員養成制度における課題」「特別支援教育の在り方」など、きわめて重い課題が審議され具現化に向けて検討が継続されている。

また、教員免許状を「基礎免許状」「一般免許状」「専門免許状」の三層構造化する方針の確定や、日本的インクルーシブシステム構築における基礎的環境

整備や合理的配慮にかかわる項目の抽出などが図られた。

中教審の審議においてかならず出てくるキーワードが「教員の資質の向上」であり「学校力の向上」である。我々には「学び続ける教師の育成」という命題が課せられている。全日中教育ビジョンについて、これまでの各都道府県における取組を検証し、組織として課題分析・改善していかなければならない。



また、総会では会務報告と決算報告に続き役員改選が行われた。新会長には三町章・新宿区立早稲田中学校長が就任し、次のような挨拶をした。

平成二十年三月告示の学習指導要領も全面実施となった。十年前の今頃は平成十年十二月告示の学習指導要領が全面実施の年でありながら、学力低下への強い懸念が世の中に大きな渦を巻き、まさに嵐の中での船出と

いえる状況だった。それを思うと、全国の各中学校においては、着実な一歩を踏み出したものと受け止めている。

世の中はすでにグローバル化が進展し、知識基盤社会の時代にある。「競争」と「共存、協力」とがともに必要とされる大変難しい社会である。大人自身が日々、こうした変化への適切な対応を求められている。このことを考えると、子どもたちに身に付けさせるべき力、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成を目指す、新しい教育課程の重要性を改めて強く感じる。まさに、これまで全国の中学校で研究・実践を積み重ねてきたことの真価が問われる。

一方、教育諸条件の整備・充実に関してはどうだろうか。中学校学習指導要領の全面実施に合わせた、少人数学級の実現や基本定数の改善がなかった義務教育費国庫負担金に代表されるように、十分な状況とは言えない。このような状況で、特色ある教育活動を展開するための学校環境の確保はされるのだろうか。子どもと向き合い、語りあう時間は確保されるのだろうか。どこでも同じICT環境で学べるのだろうか。このままでは、人的にも物的にも全国各都道府県における格差は広がるばかりである。また、教育に関

する課題解決の方向性に関して、そのときの政治情勢によって変化している現実もある。東日本大震災で被災した地域の教育復興への支援もまだまだ必要である。

今後も中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与すべく、国に求めるべきものは引き続き要請していく。学校は生きていく。生徒は日々成長している。国・地方が厳しい財政状況の中にあっても、教育の営みを止めたり、緩めたりすることはできない。校長としてやるべきことはやる。全日中としてやるべきことはやる。校長同士が「我々の意識」をもち、「有言実行」という行動理念を受け継ぎ進んでいくこと。それが課せられた使命だと強く思う。

私たち校長の熱い思いを込めて作成した全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」は、行政主導のいわゆる上からの改革でなく、教育の実践的専門家として学校の最高責任者である校長が、自らの明確な改革ビジョンをもち積極的に学校からの教育改革に迫ろうとするものである。全国約一万人の校長先生方が心を一つにして取り組んでいる。今後とも具体的な見直しを図りつつ推進していくことが必要である。

生きる力をはぐくむ

創意と活力に満ちた学校経営

新会員の抱負

中央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
那珂市
小美玉市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡



水戸・上大野小
大山紀子

歴史と伝統ある上大野小学校に勤務できることに感謝するとともに、その職責の重さを痛感しております。

子どもたち一人一人の個性を伸ばし、教職員それぞれの良さを生かし、心を一つにして、保護者や地域の方々から信頼される魅力溢れる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



水戸・稲荷第二小
小沼公道

創立百年を迎えた歴史と伝統のある本校に赴任し、明るく元気な二四六名の児童と楽しく過ごしています。児童が夢と希望をもち自分の目標に向かって精いっぱい努力できる子、それを中心から応援し支援できる教師集団をめざし、学校・家庭・地域が一丸となって全力で取り組みたいと思っています。



水戸・大場小
木下美直

豊かな自然環境と、児童を温かく見守ってくださる保護者、地域の方々を支えられて教育活動に取り組めることを大変ありがたく感じます。

大場小の子どもたちが「この学校でよかったな!」と生涯言い続けられるような学校を目指し、職員とともに頑張っています。



水戸・飯富中
皆川澄雄

飯富中学校は、隣接する飯富小学校との小中一貫教育を推進しています。朝、小中の通学路が分岐する場所に立っています。当初、小学生は、見慣れない人から挨拶されて戸惑っていたようですが、最近は慣れてきたようです。何事も「身近なところから」できるところから始めてみようと思っています。



水戸・国田中
日下部秀雄

「小中一貫教育」九年間を見据えた教育を目指し、本校は県内初の小中学校併設校としてスタートを切り十八年目を迎えます。学び合う力の育成を通して知徳体バランスのとれた力を身に付けるとともに、特色ある魅力的な学校づくりに努めてまいります。



笠間・大原小
佐川雅美

丘の上に建つ蒲鉾型の素敵な校舎。公民館機能をもたせた造りは設備が整い、このような環境で学校経営にあたる幸せを感じている。穏やかで元気なあいさつができる児童たちと暮らせることも幸せである。恵まれた環境を生かし、児童一人一人の持ちまえを伸ばす教育を、地域の方々と推進したい。



笠間・友部第二小
富永ひろみ

メタセコイヤ並木が美しい二小に勤務できる喜びと、職責の重さを同時に感じています。明るく礼儀正しい子どもたちです。その子どもたちの伸びやかな成長の実現のために「児童理解」を経営の中心におき、保護者や地域の方々を密に職員一丸となって努力してまいります。

メタセコイヤ並木が美しい二小に勤務できる喜びと、職責の重さを同時に感じています。明るく礼儀正しい子どもたちです。その子どもたちの伸びやかな成長の実現のために「児童理解」を経営の中心におき、保護者や地域の方々を密に職員一丸となって努力してまいります。



笠間・岩間第一小
鬼澤真寿

「校長先生はどうして先生になつたんですか。」と、ある女の子に聞かれました。「それは、人間が好きだからだよ。学校はいろんな人と出会える場所だから。」と迷わず答えました。人とともに生きる喜びや感動を授かった分だけ、子どもたちに還すために、今できることを少しずつつやつやしています。



ひたちなか・市毛小
小南英次

子どもたちを見守る校歌にもある校庭の桜、大松。歴史と伝統ある市毛小学校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。学校・家庭・地域が協働し、明日の市毛の地を守り、発展させていく子どもたちを育てたいと考えています。皆が「持ち前を伸ばす学校」をめざします。



ひたちなか・磯崎小
鈴木 稔

震災による仮校舎での生活ですが、明るく元気な子どもたち。常に協力的な保護者・地域の方。ここに勤務できる喜びと職責の重さを感じております。「一人一人を大切に育てる」を教育理念とし、小規模校のよさを生かし、信頼される学校づくりを教職員とともに一丸となつて取り組んでまいります。



常陸大宮・大宮北小
鈴木弘子

旧玉川小と旧塩田小が統合して三年目。双方の良さを生かしつつ、大宮北小としての新たな歴史のページに携われる喜びを感じています。「発見いっぱい」「優しさいっぱい」「元気いっぱい」のめざす児童像のもと、一二五名の児童と十四名の職員全員の笑顔のために、全力を尽くします。



常陸大宮・御前山中
関根暢生

悠々と流れる那珂川の流に映る美しい山々。豊かな自然の中で育まれた本校の九十三名の穏やかでちよつとシャイな生徒たち。私は校長として、そんな生徒たちを主体とした教育活動の充実を図り、個々の自尊心や自己肯定感を育むことで、豊かな心を基盤とした活力ある生徒の育成に尽力したいと思います。



笠間・笠間中
皆藤正造

学校は、市街を一望できる高台に位置し、毎日清々しい気持ちで一日を迎えることができます。生徒と共に行動することをモットーに「生徒のそばにいる校長」でありたい。また、市の教育目標、本校の校訓にある「持ち前」を伸ばす学校づくりを基本方針として、活力のある学校運営に取り組んでいきたい。



ひたちなか・那珂湊第三小
大内良彦

子どもたちの明るい笑顔がふれる「楽しい学校」づくりを目指してまいります。「学習が分かる・できる楽しさ」、「友達や先生と関わる楽しさ」、「運動をする楽しさ」、「こゝろした「楽しさ」を核として、職員とともに知・徳・体の調和のとれた子どもたちをしっかりと育てていきたいと思えます。



ひたちなか・阿字ヶ浦中
加茂川くるみ

阿字ヶ浦中学校は、「全ての生徒を全ての職員で支援する」という指導理念のもと、丁寧で行き届いた教育が継承されております。この理念を核にしながから、生徒達に、新しい自分と出会い、自分の可能性を見つけれれるような体験や心に残る感動を大切にしたい学校経営を目指して参ります。



常陸大宮・美和小
岡本 聡

「学校における最大の教育環境は、教師自身である。」「人は、人によって輝きを増す。」「私の好きな言葉です。百三十二名の子どもたちを育てていくことは、子どもたち一人一人の自信を育てていくこと。子どもたちが輝き、教師も輝く、そんな活きた学校づくりをしていきたいと考えています。



那珂・額田小
神代光史

歴史と伝統のある額田小に赴任し、明るく素直な子どもたちと、学校を温かく支援する保護者や地域の方々との出会うことができ、大変ありがたく、感謝しております。「一人一人が輝く活力ある学校づくり」を目指し、教職員の創意工夫を生かし、全力で取り組んでまいります。



小美玉・堅倉小
吉川博久

創立一四〇年の歴史と伝統に加え、新校舎の完成により施設・設備面での充実も図られた本校に赴任し、職責の重さを痛感しています。三七三名の子どもの豊かな自己実現を図るとともに、信頼される学校づくりを推進するため、先生方の創意とチームワークを生かした学校経営に取り組んでまいります。



小美玉・玉里小
米川博美

かしこくやさしくたくましく―児童を真ん中においた学校づくり―が本校目標です。毎日、活力溢れる教職員と共に、「自分のよさを知り自分らしく生きる」ことのできる児童、周囲に感謝される児童」の育成を目標に頑張っております。地域に信頼され、児童・教職員一人一人が輝く温かな学校を目指します。



小美玉・玉里東小
片山聡彦

創立百三十六年の伝統と霞ヶ浦に囲まれ、豊かな自然に恵まれた環境に立地する玉里東小学校に勤務できますことを、心から感謝しています。これまで、地域の中核として学校を発展させてこられた諸先輩の刻まれた年輪を、十二名の職員で担う重責を肝に銘じ、全職員一丸となり、日々努力してまいります。



小美玉・美野里中
今川宗男

今年度から校長会でお世話になります。美野里中学校の今川宗男と申します。「志(目標)をもって、自分を伸ばしましょう」「あたたかい人間関係、あたたかい友だち関係を作りましょう」を今年度の生徒のめざす姿勢とし、教育活動を展開していきます。ご指導よろしくお願いたします。



東茨城・沼前小
高倉進

百三十七年の長い伝統と自然豊かな環境に包まれ、素直な児童と献身的な保護者の皆様、何よりも学校を大切にしてください。地域住民の方々に支えられている本校に勤務できることに感謝しております。国語科を中心とした言葉の力づくりプロジェクトと、沼前しぐさを核とした「沼前の仲間」の確かな成長に全力で取り組みたいと思います。



東茨城・明光中
増田年男

五十年の歴史をもつ明光中学校に赴任しました。始業式での、生徒の傾聴の態度がすばらしく、真剣な眼に感動しました。この生徒たちの夢や目標をかなえる学校を創らなければいけない、と思いました。教員集団が、組織をもって様々な教育活動に取り組んでいく学校経営を目指していきます。



東茨城・大洗一中
飯田研一

自分を育ててくれた大洗町、大洗一中に再び勤務できることに心から感謝しています。「きらきら輝け一中生!」と同じやるなら、どうせやるなら一生懸命!の教育テーマのもと、子どもの成長を止める3D「でも・だって・どうせ」を使うことなく、夢や目標に向かって頑張る生徒の育成を目指します。



那珂郡・白方小
黒田隆久

創立五十周年を迎えた白方小学校に赴任し、毎朝元気よく朝の挨拶を交わす児童の姿に感心させられ感動しています。これから、自分の願いでもある児童と先生が共に手応えを感じたい、高め合う「一人一人がキラリ輝く活力のある学校」づくりを目指し、自信と意欲が持てる児童の育成に努力してまいります。



那珂郡・照沼小
羽石修

元気な児童たちと温かく支援して下さる保護者や地域の方々と出会い、勤務できる喜びと責任の重さを痛感しています。「明日も学校に行きたい」と思える子ども「明日も早く子どもたちの顔が見たい」と思う教師。子どもと教師の喜びが響きわたる学校づくりを、職員・保護者・地域と協力し創っていきます。



久慈・依上小
益子智好

豊かな自然と温かい地域のの方に囲まれて、八十名の児童たちが笑顔で登校してきます。校訓である「本気に考えよく たくましい子」の育成を目指して、フットワークと教職員チームワーク・地域とのネットワークを生かしながら、楽しく、安心でき、元気いっぱいな学校づくりを目指します。



久慈・大子西中
藤田富夫

四月、登校指導をしていた朝のこと。地域の方がわざわざバイクを止め、「西中の子どもたちは、毎朝私に、元気にあいさつしてくれるんですよ。」と嬉しそうに話してくれました。

あいさつの良さは地域でも評判。そんな素敵な六十九名の生徒たちのために、情熱と愛情をもって学校づくりに努めます。



久慈・大子南中
山崎則子

男体山登山入口を過ぎるとまもなく「温かき 人の心よ」と校歌が響く南中がある。

夢や希望を持ち、「継続は力なり」と仲間とともに真剣に活動する生徒の姿に感動の日々だ。教職員や生徒一人一人のチャレンジ精神・コミュニケーション能力・問題解決能力を高め合いながらともに学んでいきたい。



久慈・生瀬中
仲野朝美

沓掛の桜、しだれ桜、地蔵桜、生瀬富士があり、自然豊かな地域にある学校で二か月が過ぎ、保護者や地域の方の熱い思いを感じています。

「生徒の姿で勝負する」を motto に、素晴らしい教職員と共に一丸となって、「夢と感動」「信頼と活力」のある学校づくりに邁進したいと思います。

県北



日立・中小路小
篠原陽一

子どもたちと交わす朝の挨拶のなんと気持ちよいか。昨日あった失敗など、今朝の挨拶ですっかりリセットするかのよう

元気いっぱい校歌を歌う児童、熱心な教職員、協力を惜しまない保護者や地域コミュニティの方々。歴史と伝統ある中小路小学校に籍を置かせていただき、身の引き締まる思いである。「明日もまた来たくなる明るく元気な学校づくり」を目指し、家庭・地域との連携を推進し、誠心誠意努力していきたい。



日立・会瀬小
川崎恭子



日立・諏訪小
関辰洋

本校は、自然に恵まれ、PTA活動が活発で、地域コミュニティが協力的という教育環境の中で、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っています。

本年度は、子どもたちのさらなる成長を目指して、教職員と共に「安心・安全な学校づくり」「明日が待たれる学校づくり」を目標に取り組んでいきたい。



日立・久慈中
鈴木克彦

昨年の東日本大震災には、避難所になった学校に自ら避難しながら、地域の方々に素晴らしい対応をした生徒たち。

日立市南部にあり創立六十五年を迎える、久慈中学校に赴任しました。素直で優しい生徒に囲まれ、教師と生徒が、明るく、仲良く、元気で、地域から信頼される学校を目指します。



日立・坂本中
直江美知子

素直で明るく何事にも真剣に取り組む三百二十六名の生徒、熱意あふれる教職員とともに勤務できることの喜びと同時に、責任の重さを痛感しています。「全ては子どもたちのために」を合い言葉に、何ができるか、何をすべきか、全職員一丸となり、生徒一人一人の夢や希望の実現を目指す所存です。



日立・十王中
折笠修平

四月、十二年振りの十王勤務が始まりました。元気なあいさつができる生徒は以前と同じでしたが、私は教諭ではなく校長としての勤務となり、その職責の重さを痛感しています。「ふるさと十王を愛し、未来に向かつて心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目指して精一杯努力していきたいと思えます。



常陸太田・賀美小
佐藤 裕

子どもたちが「今日も行きたい明日も来たい」と思える学校づくりに全職員で取り組んでいます。その基盤となるのは、学力向上と積極的な生徒指導の推進です。日々、児童一人一人に積極的に関わり、わかる授業の展開や自己指導能力の育成を図り、四十一人の賀美っ子の瞳を輝かせたいと思います。



北茨城・富士ヶ丘小
鈴木博史

名峰高帽山を背にし、豊かな自然に囲まれた創立百三十九年の伝統ある富士ヶ丘小学校。明るく素直な児童とすばらしい環境のなかで勤務できることに喜びと責任の重さを感じます。協力的な保護者・地域の方々、意欲十分な職員が一体となり、共に学び合う心豊かな児童の育成に取り組む所存です。



鹿嶋市・大同東小
後藤 浩

創立九十六周年。区長さんを始めとする地域の方や保護者の力強い支援に支えられ、大同東小学校は充実した教育活動を展開しています。この伝統を引き継ぎ、「心豊かに、たくましく生きる子の育成」を教育目標に、職員と力を合わせ、地域に信頼される、開かれた学校づくりを目指してまいります。



神栖市・波崎西小
小松崎修平

松の木がシンボルの創立百三十五年になる歴史と伝統ある本校に赴任でき、光栄に感じつつ職責の重さを痛感しております。



神栖市・神栖第一中
山口俊也

「生徒の良さを引き出す学校づくり」のために、教職員の資質の向上及び意志統一を図り、一人一人の「良さ」を伸ばす研修を計画的に推進し、力のある教師集団を形成していきます。そして、目指す生徒像の実現に向け、全力で取り組みます。



常陸太田・北中
黒羽富子

新緑に彩られた丘に建つ北中学校。六十八名の素直で明るい生徒たちや温かい保護者に囲まれて勤務できることに感謝している。小規模校のよさと強みを十分に生かし、教職員の創意を結集しながら、夢の実現へと歩む生徒一人一人の学びを保障する学校づくりに努力したい。

県 東



神栖市・大野原西小
榊原利光

鹿嶋市
神栖市
鉾田市
潮来市
行方市

児童が自分の願いや夢を実現するために、努力しながらも楽しく学び活動できる学校を目指したい。それは、児童も教師も皆が互いに尊重し、存在感と充実感と誇りを持てる学校にこそ実現できる。その根底には、家庭や地域の協力が支えとなり、学校を取り巻く全ての方々の温かな人間関係であると考えている。



神栖市・太田小
石川美智子

素直で落ち着きのある児童と明るく活気あふれる職員とで、「知性と創造性に富み、心豊かでたくましく生きる児童の育成」を目指して、心をつなげた学校づくりに誠心誠意頑張りたい。



神栖市・波崎第一中
森作宜民

伝統ある神栖市立太田小学校の校長として、責任の重さを身にしみて感じている毎日です。桜の開花とともに新一年生を迎え、新たな太田小を創造していく出発点に立ちました。保護者や地域の方々とともに本校の教育目標でもある「元気で 心豊かな 知恵のある子」をはぐくめるよう頑張りたいと思います。

本校では、「一人一人の生徒が成就感・達成感を味わえる学校」を目指して取り組んでいます。そのために、「活気と創意ある教師集団」が何より必要と考え、「目標に向かい、意見を出し合い、組織として共に歩める集団」づくりを進め、目標達成のために校長として邁進したいと考えています。



鉦田・野友小
柴 義孝

新任校長として赴任し、明日が見通せない毎日にこれまでにない不安と焦りを感じています。

しかし、新任であれベテランであれ、子どもたちや教職員にとっては、学校のリーダーであり責任者でもあります。そういった自覚をもって学校運営を行っていく所存です。今後とも指導をよろしくお願いいたします。



鉦田・上島西小
高崎啓子

上島西小学校に赴任して、早くも一月半が経ち、新しい出会いの中での教育活動に喜びと共に責任を感じる毎日です。

好奇心旺盛で、明るく元気な子どもたちと熱心な先生方、地域の宝として子どもたちを見守ってくださる方々と共に「笑顔と活気にあふれた楽しい学校」づくりに努めてまいります。



潮来・津知小
中村裕幸

明るく素直な子どもたち、熱意と力量のある教職員、協力を惜しまぬ保護者や地域に迎えられ、喜びと共に職責の重さを感じています。

地域から信頼され、子どもたち、そして教職員が自信と意欲に満ち、日々の充実感と将来への希望がもてる活力ある学校づくりに努力してまいります。

県南

土浦市

稲敷市

石岡市

かすみがうら市

龍ヶ崎市

つくばみらい市

取手市

稲敷郡

牛久市

北相馬郡

つくば市

守谷市



土浦・中村小
嶋山和也

創立64年目の本校の玄関には「自治」「勤労」「感謝」の校訓が掲げられています。創立当初からのこの教育観は、東日本大震災やグローバル社会への変化を踏まえ、子どもたちに培いたい日本人としてのアイデンティティと考えています。家庭や地域と信頼を深め、ともに育んでいきたいと考えています。



土浦・上大津東小
羽鳥文雄

豊かな自然環境の中で、家庭や地域に温かく支えられている本校に勤務できる喜びと、その職責の重さを感じています。

「子どもが主役で、キラキラ輝く学校」を目指し、課題に挑戦する気概と明確な経営ビジョンを持って、「オールウェイズ・チャレンジ&スマイル」で努力していきます。



土浦・神立小
廣原高志

神立小学校は土浦市の東部に位置し、工業団地の中にある活気に満ちた学校です。朝のスタートから元気いっぱいあいつが飛びかき、気持ちのよい一日を送っています。神立小の子どもたち一人一人が将来の夢をもって前進できるように、校長として共に歩んでいきたいと考えています。



土浦・乙戸小
江原保子

来年三十周年を迎える本校には校歌「美しい未来をつくろう」が制定されております。「明るくあいきつしあう」「お互い助け合

う」「創造する」児童の姿に美しい未来を重ねた作詞者の思いを忘れず、乙戸小学校のよりよい伝統を築いていくことができよう「教師の一分(いちぶん)」にかけて努力する所存です。



石岡・吉生小
遠藤繁樹

筑波の山々に囲まれ、風光明媚で自然豊かな八郷の吉生地。学区には、関東の清水寺として有名な峰寺があります。素朴な子どもたち、教育熱心な先生方、そして、保護者や地域の方々の協力を得ながら、「豊かな心と何事にも主体的に取り組む児童」の育成を目指し日々の教育活動に邁進したいと思います。



龍ヶ崎・大宮小
櫻井康夫

創立百三十七年の歴史と伝統のある大宮小学校に赴任できたことに、感謝すると共に職責の重さを痛感しております。

「子どもが主役の学校」づくりを目指し、保護者や地域の方との連携を深めながら、教職員が一丸となって、日々の教育活動に全力で取り組む学校を目指します。



龍ヶ崎・長戸小
岡崎和男

百二十年の伝統を誇る龍ヶ崎市立長戸小学校。校長室には、故鈴木貫太郎元首相書「正直に腹を立てずに撓たぶまず励め」という日常訓額が飾られています。

この日常訓に習い「正直に怒ることなく、嫌になることなく、日々励み」長戸小学校の子どもたちの輝く未来を開いていききたいと思っております。



龍ヶ崎・川原代小
櫻井登代子

私は、このたび、龍ヶ崎市立川原代小学校に赴任いたしました。八幡神社が隣接する歴史ある学校です。

私は、子どもも教師も夢を抱き、笑顔あふれる学校をつくりたいと思います。そのためには私自身元氣いっばいに、日々進化する教師を目指していく覚悟です。



龍ヶ崎・北文間小
濱田栄一

本校は、明治七年地元の飯塚古登さんが、私財を注ぎ込み、また幾多の苦難を乗り越えながら募った寄付で創立された重き歴史と伝統のある学校です。

教育の原点でもある彼女の建学の精神を思う度に、その継承と発展を図る責務の重大さに、身の引き締まる思いがします。初心を忘れず、頑張ります。



龍ヶ崎・城ノ内小
大古輝夫

校庭には、毎日のように野うさぎが姿を見えます。本校は、豊かな自然に恵まれた開校十二年目の新しい学校です。

明るく元氣な児童と熱心な教職員、協力的な地域や保護者の皆様と共に「明るい学校、楽しい学校、活力のある学校」づくりを目指し、全力で取り組んで参りたいと存じます。



龍ヶ崎・長山中
鈴木裕一

創立三十周年を迎える年に校長として赴任できたこと、喜びと共に職責の重さを日々実感し、身の引き締まる思いです。

教職員が助け合い、何事にも一丸となって取り組む「チーム長山」をつくり、生徒の良さを生かすことを目指し、「生徒一人一人を生かす」を推進していききたいと思っております。



取手・寺原小
猪狩朋子

明るく元氣いっばいの子どもたちと、前向きに頑張る教職員に迎えられ、職責の重さとともに新たな情熱が湧いてきました。

「学びあい 支えあい 鍛えあい」の中で子どもたちの個性を伸ばし、未来への夢を育む教育を推進すべく、家庭や地域とともに全職員で心を一つにして取り組んで参ります。



取手・戸頭西小
椎名和良

「子どもも教師も元氣な活力のある学校づくり」に取り組んでいます。中心は、主体的な学習態度、礼儀、思いやりです。

そのためにも、全職員が授業の準備をしつかり行い、授業展開を工夫し、元気に挨拶し、学年・学級経営を基盤とした経営を推進していききたいと思っております。



取手・山王小
飯泉 務

社会の変化を積極的に受け止め、未来を担う人材の育成の観点から教育課程や指導の工夫・改善に取り組み、児童一人一人が輝く活力ある学校づくりを目指し「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた育成を行い「生きる力」を育む教育活動を推進します。

「子どもも教師も元氣な活力のある学校づくり」に取り組んでいます。中心は、主体的な学習態度、礼儀、思いやりです。



牛久・奥野小
片岡 賢

伝統ある奥野小に赴任して二か月が過ぎた。明るく素直な子どもたちと情熱ある職員に囲まれ、校長としての使命感と職責の重さを感じながら過ごす毎日である。「信頼は人を育てる」と言われる。二一人の子どもの

たちの健やかな成長を目指し、保護者・地域と一丸となった学級経営に取り組んでいきたい。



牛久・神谷小
久保田英行

教師になって三十一年目の今年、創立三十一年目を迎えた牛久市立神谷小学校に新任校長として赴任したことに運命的なものを感じています。

神谷小学校は学習環境に恵まれ、地域の方々やPTAの協力も得られる素晴らしい学校です。ここで、校長としての腕をしっかりと磨きます。



牛久・下根中
藤ヶ崎敦

新会員の藤ヶ崎です。よろしくお願ひ致します。私は校長として歩き出したばかり、この職が務まるか不安な気持ちの中で「共に学び共に育つ楽しさを実感できる学校づくり」を目標としました。この目標の実現に向かつて全力で努力していきま



つくば・吾妻小
土田十司作

つくば駅近くの教育環境に恵まれた地に赴任し、喜びと職責の重さを痛感しております。地域の方々の協力や教育施設の活用により、児童が実感し、感動できる教育活動を創造していく必要性を感じています。地域とともに歩む学校づくりに取り組み、児童の個性を伸ばしていきたいと思ひます。



つくば・筑波小
富田恵子

山はしたしく語ってる。がちり育てと語ってる。美しく豊かな筑波山に育まれた地域。学校を開き、地域の力を借りながら、児童一人一人が体験を通して学ぶ喜びを感じ、自分を生かし人を生かす喜びを実感できる学校づくりを目指します。そして、児童の姿を通して学校の活力を地域に発信します。



つくば・松代小
栗山賢司

個性豊かな児童、熱心な教職員、協力を惜しまない保護者に迎えられ、松代小学校に勤務できますことに、喜びを感じています。保護者や地域との信頼関係を築き、児童や教職員と夢を語ら



つくば・春日小
岡野和夫

新設の施設一体型小中一貫校に赴任いたしましたので、柔軟な発想で、その特色を生かした教育を推進し、保護者・地域の期待と信頼に応えていきたいと考えております。そのためにも、教職員一人一人の持ち味を生かす経営を目指してまいります。学校長会のお導きをよろしくお願ひいたします。



つくば・荃崎中
石川榮樹

「生徒・教職員の向上的変容を共に喜ぶ校長になろう。学び続ける校長になろう」四月当初から肝に銘じていることである。生徒にとって学びがいのある学校・教師にとってやりがいのある学校・保護者や地域から応援してもらえる学校・そして、楽しく感動にあふれている学校を教職員と共に創っていき



守谷・大野小
坪井一彦

発展著しい守谷市にあって、ここ大野地区は古き良き守谷の面影を今も残している。米づくり体験学習をはじめ数々の行事は、協力的な保護者と地域に支えられている。当たり前のことが当たり前のようにできる心豊かな児童の育成に全力で取り組み、保護者や地域の期待に応えたい。



守谷・高野小
長谷川眞人

元気な学校の象徴は子どもたちの「笑顔」です。大切な六年間を過ごす小学校だからこそ、たくさんさんの「感動」を味わってほしい。そして何事にも「向上心」をもって取り組んでほしい。そうすれば必ず豊かさをともなう「笑顔」が校内に溢れると信じます。そんな学校をみんなで作っていききたいと思ひます。



守谷・けやき台中
辺見芳宏

「夢に向かつて明るく逞しく」を合言葉に、学習や部活動・生徒会活動に全力で取り組む生徒たちと熱意あふれる先生方。共に汗を流せる喜びと同時に職責の重さを痛感している。創立二十二年の若さを生かし、しなやか且つ大胆な発想で、生徒を全面に出した教育活動を推進していき



稲敷・江戸崎小
橋爪正文

歴史と伝統のある学校に勤務できる喜びとその重責を感じながらの日々。あたたかい地域・子どもたち、そして教職員と学校経営に取り組めることに感謝しています。「一人では何もない」からこそ「教職員集団」の力を高め、「地域・保護者」との連携を図りながら、目指す学校づくりに邁進します。



稲敷・高田小
富田耕太郎

児童にとって「六年間この学校で学べてよかった」、保護者にとって「わが子を通してよかった」、教師にとって「わが子を通してよかった」と思う学校が校長として、私の理想とする学校です。これは、学校だけでは、できません。地域や保護者の方々のご協力を得て、実現するものと考えます。



稲敷・柴崎小
高橋雅之

児童の元気な声が響き渡る歴史と伝統のある柴崎小学校に再度勤務できることに感謝するとともに、歴史の幕引きをする職責の重さを感じております。また、学校、家庭、地域社会、関係機関が連携・協力しながら児童も教師も明るく、元気で活気のある学校になるよう精一杯努力したいと考えております。



稲敷・古渡小
西山京子

元気溢れる子どもたち、熱心で心温かな教職員、協力的で学校を思ってくださいる保護者・地域の方々。校長としての職責の重さを感じながらも、この出会いが嬉しく、希望に満ちてスタートを切りました。小規模校を強みにした「一人一人が生き生きと輝く、勢いのある学校づくり」を目指し全力を尽くします。



稲敷・東中
木之内英一

歴史と伝統、そして実績の稲敷市立東中学校に着任し、その責任の重さを感じているところです。中学生という多感な時期の生徒を預かり、時には困難も予想していますが、「いいものはいいい、ダメなものダメ」の方針の下、全職員で生徒の健全育成に取り組む所存です。



つくばみらい・小絹小
鈴木不二男

「夢乗せてアルソミトラが春に舞う」子どもたちが大きな夢をもち、前に向かって進むことを願った自作の句です。「学校は管理者でなく先生が必要」との御助言を肝に銘じ、私自身も夢を語り、夢があふれる学校実現に向けて努力したいと思えます。どうぞ御支援をよろしくお願いいたします。



稲敷郡・安中小
藏持正則

安中小学校七十年の歴史のページに、校長としての一年が刻まれる。身の引き締まる思いである。美浦村の宝である一〇五名の子どもたちを、「心やさしくたくましく〜みんなで創ろう楽しい学校〜」を合い言葉に、全職員一丸となり、保護者・地域の方々と手を携えて育てていけるよう努力してまいります。



稲敷郡・君原小
田村実枝子

豊かな自然と温かな地域に育まれた愛すべき君原っ子に出会えたことに感謝し、職責の重さを日々痛感しております。子どもたちが夢や希望をもつて楽しく学び合える学校でありたい。気概ある教職員とともに、小規模校の特色を生かしながら、信頼される学校づくりに努めてまいります。



稲敷郡・生板小
志村 一

大利根の郷にそびえ立つ生板小。学校は子どもたちの「元気なあいさつ明るい笑顔」で一日が始まります。この子どもたちを支える力は学校・家庭・地域の総合的な力です。この総合的な力は子どもたちを中心とした信頼関係から生まれます。信頼関係を基盤にした学校づくりに取り組んでいきたいと思えます。



北相馬・利根中
飯田文夫

本校は町内唯一の中学校です。それ故、町民すべての方の思いと願いを背負い、強い使命感をもって経営にあたらなければならぬ重責を痛感しています。保護者・地域・学校全体で子どもに夢を育み、教職員と夢を語り、実現のための努力とその大切さ、すばらしさを共有し、邁進していききたいと思えます。

県西

- 古河市 結城郡
- 結城市 猿島郡
- 下妻市
- 常総市
- 筑西市
- 坂東市
- 桜川市



古河・古河第四小
倉持 功

「一点突破」先輩校長からいただいた言葉は、それまで混沌としていた学校経営に対する思いをすっきりと整理してくれた。小学生は一つのことを徹底して指導すれば、それに付随して様々な分野で成長が期待できる。本校ではあいさつの声が大きくなってきた。えがおも一杯になる日が近いと感じている。



古河・古河第五小
平井聡一郎

何事にも力一杯「がんばるいい顔」、朝夕の心からの挨拶、雑巾で床を磨き上げる「さわやかいい顔」、相手の立場にたって行動できる「やさしさいい顔」。三つのいい顔づくりが今年の古河五小のスローガンです。こんな顔で古河五小が満ち溢れるよう「いい顔」で、学校経営に取り組んで参ります。



古河・古河第六小
菊池 均

古河六小は校舎の建て替えの真っ最中です。古河六小の歴史の大きな節目です。私たちはこれらを見届け、この時の体験をそれぞれの立場で語り継いでいく使命を持っています。今後の学習や行事一つ一つが古河六小の歴史の節目体験であるという思いを持って、一人一人の心に残るようにしたいと思います。



古河・小堤小
齊藤修一

特別支援学校から久しぶりに戻り、また違った意味で意を新たにしているところです。今年度は、「基盤は学級」をキーワードに学年・学級経営の充実を図り、知・徳・体、調和のとれた人間性豊かな児童の育成に努めていきます。また、全職員が一丸となって信頼される学校づくりを進めます。



古河・中央小
草間典夫

「自信と謙虚さを忘れずに思いつきり・」の言葉に背中を押されて、五三四名の大切な宝と出会いました。笑顔と元気とやる気、そして夢いっぱいの子供一人一人の可能性を大きく大きく膨らませることができるよう、職員との一体感をもって学校経営にあたっていくしたいと思います。



古河・総和北中
赤松 治

私は中学校が大好きです。中学校の活気あふれる毎日が大好きです。人は感動の中から夢をはぐくみ、夢に向かって努力することにより、生き生きとした人生を歩むことができます。「夢と感動のある学校」をキャッチフレーズに、ワクワクした魅力ある学校づくりに努力したいと思います。



結城・江川北小
塚本柳一

明るく素直な子どもたち、熱心で協力的な保護者や地域の方々、子どもたちが大好きで情熱溢れる職員に囲まれ、改めてこの歴史と伝統ある江川北小学校に赴任できたことに喜びと責任の重さを感じています。自ら学び、心豊かにたくましく生きる「江北っ子」を育てるために全力で取り組みます。



結城・江川南小
和田慎一

本校は、児童数一〇四名の、職員、児童、保護者、地域の方々、みんなが仲の良い学校です。四月に赴任してから、いろいろな方とのふれあいの楽しさを満喫させてもらっています。私は、おしゃべりが大好きなので、児童や学校、地域の良さを、ふれあいの中からたくさん見つけようと思っています。



常総・五箇小
袖山恵子

児童数七十二名の小規模校の本校。この規模だからできることがあります。この規模だから出せるよさもあります。そのよさを生かした取組で、目の前の児童に「生きる力」を育てることが私たち教職員に与えられた使命です。そのリーダーとして保護者・地域の信頼と協力を得られるように努めていきます。



常総・大花羽小
稲川尚之

経験を重ね、自分の思いや経験からの思考や行動が多くなる。年も重ね、周囲の反論も少なくなる。裸の王様になるまいと、新しい知識やスキルをと言いつつ、従前に囚われる自己に気づく。新しい立場は重責である。先輩の足跡を踏み、助言をいただき、探求しながら率先垂範を心がけ子どもの笑顔に変えたい。



常総・菅原小
杉山昭子

「わがふるさとの空高く、天満宮に梅薫る：」校歌にも謳われる通り、菅原小の名は道真由来の歴史を誇る。緑深い丘の上に大櫓に見守られ、地域に温かく支えられる絶好の教育環境。「みんなちがってみんないい。」一人一人を大切にし、やる気と自信を育て、清々しい笑顔あふれる学校づくりに邁進したい。



常総・菅生小
高島好実

明るく弾ける笑顔、元気に挨拶できる一九四名の児童達との出会いには、やりがいを感じさせられ、校庭を取り囲む樹木の雄大さには、歴史の重みを痛感させられています。奉仕作業があれば、皆さんの保護者や地域の方々が参加して汗を流してくれる学校です。この気持ちに報いるためにも全力を注ぎます。



常総・豊田小
田中瑞穂

豊かな自然と純粋で明るい子どもたち、協力的な保護者や地域の方々、意欲的な教職員と共に勤務できることの喜びと責任の重さを痛感しています。子どもたち一人一人が、喜んで登校し、楽しく学び、満足して下校できる学校を目指し、全職員が一体となった学校経営に努めていきます。



筑西・中小
小林 節

歴史と伝統があり、地域全体で子どもたちを大切にしている中小学校に勤務できることに感謝し、重責を痛感しています。児童一七六名、一人一人が輝く魅力ある楽しい学校づくりを目標として、家庭や地域との信頼関係を一層深め、全職員が組織体として共通実践できるように努めていきたいと思えます。



筑西・鳥羽小
谷口みづえ

鳥羽小学校の朝は、「おはようございます。」という明るい元気な声が響き合う中でスタートします。温かな言葉のシャワーを浴びながら、鳥羽の子どもたちに出会えた喜びを感じています。未来に力強く羽ばたく鳥羽の子ども一人一人を想い、全職員と共に「挨拶が響き合う笑顔あふれる学校」を目指します。



坂東・中川小
古矢 勲

明るく素直な百七十七名の子どもたち、意欲的な教職員、協力的な保護者や地域の方々に迎えられ、歴史と伝統のある本校で勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。「何事も一生懸命楽しむ」ことを忘れず、十六名の教職員がしっかりとスクラムを組んで「楽しく、活力ある学校」を目指します。



桜川・坂戸小
新井章広

豊かな自然と美しい環境、人情味豊かな地域の方々、意欲に満ちた職員、素直な児童に迎えられ大きな喜びと責任の重さを痛感しています。伝統ある坂戸小学校で諸先輩の業績を大切にしながら、児童一人一人を生かし、地域に根ざした学校づくりに邁進していきたいと思えます。



桜川・羽黒小
山本眞実

新緑に映える山々を背景に校庭で活動する児童、設備の整った校舎や校庭など素晴らしい学校に赴任できた幸せに感謝しています。あいさつが響き合う学校を作っていくとともに、「たくましく生きる力」と「協力し合う心」を兼ね備えた児童の育成を目指して精一杯尽力していく所存です。



桜川・樺穂小
倉持達哉

常陸三山の山々が眼前に迫る美しい自然に恵まれた伝統校に勤務できた喜びとともに職責の重さを痛感している毎日です。「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を柱に、一人一人を大切に活力と地域の方々に信頼される学校と児童・保護者・職員が「本校でよかった」と思える学校を目指します。



結城郡・下結城小
篤 緑

活気ある職員と素直な子どもたちに囲まれた下結城小での生活は、毎日が新鮮で喜びである。「人と人とのつながり」を大事にしたい。出会ったことに感謝しながら、つながりを強めていきたいと思う。校長として自覚と責任をもち「一人一人にとって楽しい学校づくり」に知恵を出し合い取り組んでいきます。

創立百二十三年目の歴史と伝統ある本校に赴任し、校長としての責任の重さを実感しています。校歌の好きな一節の「行く風に目をふせないで そうさいつでも前をみて のびゆく静小学校」を歌うたび、困難から逃げない自立した人間に育ってほしい、子どもたちに生きる力をつけたいと痛感しています。



猿島郡・静小
和久俊明

若き日に勤めた学校に再び勤務できることに喜びと合わせ、地域・郷土に根ざした学校経営の責任を強く感じています。「感動いっぱい・夢いっぱい・きらめく五霞東小」を目指して、常に学校経営の中心に子どもをおき、活力ある信頼される学校づくりに全力で取り組んでいく所存です。



猿島郡・五霞東小
逆井 昇

再任会員名簿

(敬称略)

	郡市名	学校名	氏名
1	水戸市	五軒小	木村 久美子
2		梅が丘小	勝村 登
3		内原中	本多 清峰
4	ひたちなか市	佐野小	藤田 秀美
5	東茨城郡	南中(大洗町)	藤田 達人
6	日立市	助川小	大内 康平
7		成沢小	谷田部 克典
8		大久保中	酒井 孝行
9	常陸太田市	小里小	和田 健児
10		太田中	岡部 昌見
11	北茨城市	精華小	豊田 健司
12		明德小	小高 五十二
13		大津小	乾 孝之
14	鹿嶋市	大野中	佐々木 孝明
15	行方市	麻生中	小野口 和章
16	土浦市	土浦小	細谷 直弘
17	つくば市	桜中	舘 稔夫
18		竹園東中	矢口 和美
19		筑波東中	倉田 廣之
20	古河市	古河第一中	岡野 優
21	下妻市	下妻小	横堀 孝徳
22		上妻小	大島 正
23		下妻中	中山 均
24	筑西市	下館小	野口 敬三
25	結城郡	八千代第一中	湯本 春雄
26	猿島郡	境第一中	山中 康雄

平成二十四年度の
茨城県学校長会事業

一 評議員会・常任評議員会の開催

○年間四回の定例評議員会と
年一回の常任評議員研修会
を開催する。

・第一回評議会 四月一八日
・常任評議員研修会 七月
二四日

・第二回評議員会 九月
一二日

・第三回評議員会 一月
二〇日

・第四回評議員会 二月
二〇日

二 企画会の開催

○年五回の定例企画会を開催
する。

・第一回企画会 四月二日
・第二回企画会 七月二四
日

・第三回企画会 八月二日
・第四回企画会 一月
一四日

・第五回企画会 二月六日
・ブロック幹事会の開催：
平成二十四年六月一九日

三 ブロック幹事会の開催

【小・中学校部会の活動】

一 小学校部会

ア 小学校部会の開催

○年四回（四月一八日、九
月二日、二月二〇日、
二月二〇日）

イ 茨城県小学校長研究協議
会の開催

○期日 平成二十四年二月
一二日

○フェリヴェール・サンシャ
イン（水戸南）

ウ 全連小奈良大会への参加
○期日 平成二十四年十月
二五日～十月二六日（二
日間）

エ 関プロ小群馬大会への参加
○期日 平成二十四年六月七
日～八日（二日間）

二 中学校部会

ア 中学校部会の開催

○年四回（四月一八日、九
月二日、二月二〇日、
二月二〇日）

イ 茨城県中学校長研究協議
会の開催

○期日 平成二十四年二月
五日

○会場 教育プラザいばらき

ウ 関地区中新潟大会への参加
○期日 平成二十四年六月
一四日～一五日（二日間）

エ 全日中大阪大会への参加
○期日 平成二十四年十月四
日～五日（二日間）

平成二十四年度 学校長会役員



常陸太田市立瑞竜中学校
副会長 中村 和幸



水戸市立浜田小学校
副会長 吉澤 一喜



水戸市立第一中学校
会 長 東小川 昌夫



結城市立結城小学校
副会長 塩森 茂郎



市立
うらぎ
がみ
かす
下
稲
吉
中
学
校
副
会
長
久
松
隆



鹿嶋市立三笠小学校
副会長 錦織 常雄

お 知 ら せ

軍司幹光事務局長が六月三十
日で退任いたしました。

平成二十四年度「教育プラザ
いばらき」の職員を紹介します。

- 学校長会事務局長 大木 勝司
- 主 幹 根本 福雄
- 主 幹 佐々木有香
- 主 幹 関 晃
- 主 幹 石島久美子
- 主 幹 海老澤 誠
- 主 幹 磯崎真由紀
- 教育センター主 幹 磯崎真由紀

編 集 後 記

早いもので、一学期の終盤を
迎える時期になりました。昨年
度から原稿の集約等をメールを
活用しています。時折、不具合
が生じまして皆様にご迷惑をお
かけしましたこと、大変申し訳
ございませんでした。

今号は、各部・各委員会の構
想を特集しました。ご多用の中
ご寄稿くださいました皆様に、
心から感謝申し上げます。

会員相互の共通理解と情報交
換ができますように、今後とも
「読んでもらえる誌面づくり」に
努力して参ります。なお、今年
度から支部だよりにつきまして
は、学校長会Webページで活
動状況を紹介する予定です。